

〈資料〉

## ESCAP 「障害・生活・貧困に関するアクションリサーチ」 国内調査の結果

寺 島 彰 \*

### 要約

2012年に国連アジア太平洋経済社会委員会は、アジア太平洋地域の8か国で「障害・生活・貧困に関するアクションリサーチ」を実施した。しかし、同調査は、国際比較を目的としていたため、詳細な調査を実施したにもかかわらず、比較可能な項目についてのみ報告されているのみであった。そこで、本稿では国内の調査結果の詳細について報告した。その結果、障害者世帯の状況、外出時の障壁、生活支援、収入の状況、医療機関受診状況などについて新たな知見が得られた。

キーワード ESCAP 障害者 実態調査 日本 国際比較

### 目次

1. 調査全体の概要
2. 国内調査の概要
3. 国内調査の結果
4. 考察

### はじめに

国連アジア太平洋経済社会委員会（United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific : ESCAP）は、2012年に、障害者自身の声を集め、障害・生活・貧困のダイナミズムを理解することに焦点を当て、各国の障害・生活・貧困に関する比較可能な新しいデータを集めるために各国の障害関係団体に調査を依頼した。我が国においては、日本障害フォーラム（Japan Disability Forum : JDF）がその調査を受託し、筆者が研究をコーディネートした。調査は、国際調査と国内調査からなっており、国際調査の結果はESCAPから報告されている。しかし、ESCAPの関心は国際比較であり、比較できるデータのみを報告しているため、国内調査の結果の詳細は報告されていない。そこで、本稿では、それを補うために国内調査の結果を報告するものである。

## 1. 調査全体の概要

### 1-1 調査の名称

「障害・生活・貧困に関するアクションリサーチ」(Action Research on Disability, Poverty and Livelihoods)

### 1-2 調査目的

障害者自身の声を集め、障害・生活・貧困のダイナミズムを理解することに焦点を当て、各国の障害・生活・貧困に関する新しいデータを集めること。

### 1-3 調査実施者

国連経済社会委員会(ESCAP)および参加各国障害者関係団体

### 1-4 調査対象

フィジー、インド、日本、カザフスタン、韓国、パキスタン、フィリピン、タイの8か国の男性16歳～64歳、女性16歳～59歳の障害者

### 1-5 調査内容

#### (1) 量的調査

##### A. プロフィール

- 1) ESCAPからの質問
- 2) 各国の質問(各国の障害者関係団体が関心をもっている内容を追加することができる)

##### B. 生活の質

参加各国障害者関係団体が採用したQOL指標を用いた質問

#### (2) 質的調査

障害者の質的データと障害者の声を集めるためのライフストーリー調査

### 1-6 調査方法

- (1) ESCAPがプロフィール調査票を作成し、参加各国の障害者関係団体にeメールで送付する。
- (2) 参加各国障害者関係団体は、生活の質調査票とライフストーリー調査票を母国語で作成し、母国語に翻訳したプロフィール調査票とともに参加各国障害者団体が調査を実施する。調査に当たっては、男女比、地域性(都市・農村)、障害種別が偏らないように配慮する。
- (3) 参加各国障害者関係団体は、プロフィール調査票を母国語に翻訳し、独自調査票を加えて、調査を実施し、調査結果を整理し、英語に翻訳したのちESCAPに送付する。

### 1-7 調査期間

- (1) ESCAPプロフィール調査の調査票を母国語に翻訳 2012年3月1日～3月31日
- (2) 各団体での調査 2012年4月15日～5月31日
- (3) データ整理・翻訳 2012年6月1日～6月30日
- (4) ESCAPへデータ送付 2012年9月4日

## 2. 国内調査の概要

### 2-1 調査実施者

日本障害者フォーラム (JDF)

### 2-2 調査対象

次のJDF加盟団体の会員（男性16歳～64歳、女性16歳～59歳の障害者）

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

社会福祉法人 日本盲人会連合

財団法人 全日本ろうあ連盟

社会福祉法人 日本障害者協議会

特定非営利活動法人 DPI日本会議

社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会

財団法人 全国精神障害者家族会連合会

全国「精神病」者集団

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

### 2-3 調査内容

(1) 調査1：量的調査（アンケート調査）

1) プロフィール調査（資料参照）

2) 生活の質調査

(2) 調査2：質的調査

障害者個人のライフストーリー調査

### 2-4 調査方法

JDF加盟団体（障害者団体11団体）にeメールにより調査票を送付し、各団体で性別、地域（都市、地方）など集中しないように配慮し、その調査票をeメールまたは印刷物で送付してもらった。

調査結果は、各加盟団体に集約し、回答者番号を記入し、実名を消去をしたのち、JDF事務局に送付してもらった。

## 3. 国内調査の結果

### 3-1 世帯のプロフィール

(1) 居住地域

全体	市	町	村
128	118	7	3

## (2) 世帯人員数

単位 人(%)

平均	単身世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人世帯	6人世帯	7人世帯
2.25	50 (39)	30 (23)	29 (22)	8 (6)	8 (6)	2 (2)	1 (1)

## (3) 平均世帯収入

112,887円／週

## (4) 持ち家率

69.0%

## (5) 自家用車所有率

62.9%

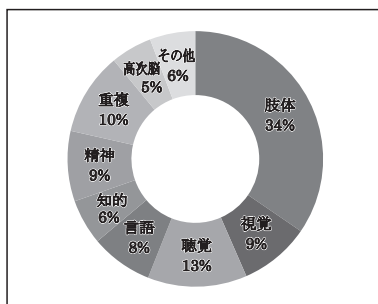
## 3-2 障害者個人のプロフィール

## (1) 回答者数

全体 (人)	男性 (人)	女性 (人)	男性 (%)	女性 (%)
128	92	36	72	28

## (2) 障害種別

肢体	視覚	聴覚	言語	知的	精神	重複	高次脳	その他	全体
66	17	24	15	11	17	20	10	11	191



## (3) 平均年齢 44歳

## (4) 世帯主との関係

本人	夫	妻	息子	娘	子	兄弟	姉妹	孫
79	0	7	27	11	1	0	1	2

## (5) 被扶養者の有無

あり	なし	全体
30	96	126

## (6) 補助なし屋内移動

できる	できない	全体
121	5	126

## (7) 補助なし屋外移動

できる	できない	全体
95	31	126

## (8) 道路や公共交通機関はアクセシブルか

アクセシブル	補助があれば利用できる	どうしても利用できない	全体
73	50	1	124

## (9) 外出時何が障壁になっていますか

段差	24
階段	17
音が聞こえないこと	8
道のアクセシビリティ	5
情報不足	5
雪道・雪	4
判断を支援してくれる制度	4
公共交通機関	3
記憶障害	3
駅が遠い	3
階段に手すりがない	2
安全でない	2
道に迷う	2
狭い道	2
スロープ	2
鉄道車両とホームの隙間	2
エスカレーター	2
援助依頼ができない	2
障害への無理解	2
放送が聞こえない	2
費用	2
田舎のため交通機関が少ない	1
電動車いすのバッテリーの持続時間	1
曲がった道	1
公共バス	1
混雑した場所	1
エレベーターのボタン	1

トイレ	1
合理的配慮がない	1
システムの欠陥	1
物理的環境	1
入店拒否	1
自分の身体のコントロールがきかない	1
公共交通機関の営業時間	1
ドア	1
透析による時間の制限	1
化学物質のにおい	1
和式トイレ	1
疼痛	1
混雑した電車	1
じろじろ見られること	1
単独行動	1
見守り	1
新しい環境	1
コミュニケーション技能	1
疲労	1
虚弱	1
広場恐怖	1
運賃	1
脅迫観念	1
やさしい支援がない	1
自動車	1
エレベーター	1
ストレプトマイシン	1
時間がない	1
視覚情報がない	1
雨	1
重い荷物	1
渡し板	1
乗客	1
駅員がいない	1
指示がない	1
遂行機能障害	1
公共交通機関利用の補助がない	1
駅の乗り換えができない	1
放送が理解できない	1
道路標識	1
道路横断	1
盲ろう通訳介助が少ない	1
視覚障害	1
ガイドヘルパーがいない	1

## (10) 福祉機器を使用しているか

している	していない	全体
77	51	128

## (11) 日常生活に支援を必要としていますか

している	していない	全体
43	82	125

## (12) 日常生活で十分な支援を受けているか

受けている	受けていない	全体
40	1	41

## (13) その支援は家族によるものですか

家族による支援	家族以外の人による支援	全体
8	32	40

## 3-3 教育

## (1) 最終学歴

大学院	大学	短大	専門学校	高校	特別学校 高等部	中学	特別学校 中等部	小学校	全体
6	29	5	20	43	16	2	1	1	128

## (2) 特別学校入学経験

あり	なし	全体
27	100	127

## (3) 学校で特別な支援をうけたか

受けた	受けない	全体
37	89	126

## 3-4 職業

## (1) 就労状況 (n=126)

被用者	自営	働いていない	働いていないし求職もしていない
76	12	12	26

## (2) 働いていない場合、働きたいと思っていますか

思っている	思っていない
30	13

## (3) 働きたいと思わない理由 (重複回答)

採用されない (仕事が見つからない)	6
できる仕事がない	3
職場までの移動が困難	3
職場での介助がない	3
トイレ介助がない	1
働く環境が整っていない	2
合理的配慮がない	1
障害のため	8
重複障害	1
自閉症	1
精神障害のため	1
仕事の指示を守れない	1
記憶障害	1
体のバランスが悪い	1
病気のため	3
透析のため時間が限られている	1
障害に対する理解がない	3
労働時間	2
労働時間が長い	1
技術がない	1
体力がない	2
疲労が激しい	1

## 3-5 所得・収入

## (1) 就労している場合自分の生活を支えるのに十分な収入があるか

ある	ない
57	30

## (2) 就労している場合被扶養者を含む家族の生活を支えるのに十分な収入があるか

ある	ない
24	59

## (3) 家族の収入に貢献しているか

している	していない
67	46

## (4) 誰があなたの収入の使い道を決めるか

自分自身	世帯主	その他の人	話し合って決める
94	3	7	23



(5) あなたにとって一番大切な財産は何ですか。

家族	20
家	19
貯金	13
土地	10
お金	7
友人	7
人間関係	4
人生	4
健康	3
車	3
障害年金	3
同僚	1
知的財産	1
介護者	1
NPO	1
自分の身体	1
子ども	1
ペット	1
公的支援	1
年金	1
愛	1

(6) 国や地方自治体による融資制度を活用する資格があなたにあるかどうか知っていますか。

知っている	知らない
52	71

(7) あなたは、所得支援制度を利用したことがありますか。

ある	ない
92	32

### 3-6 収入以外の支援

(1) 日常生活での生活支援を受けていますか。

いる	いない
51	73

(2) 一日平均何時間くらい日常生活での支援を受けていますか。

時間	人
1	9
2	3
3	5
4	2
5	3
6	2
8	5
9	1
10	3
12	4
13	1
15	3
16	2
18	2
24	6

(3) 家族の生活に関する決定に参加していますか。

いる	いない
102	21

(4) 旅行など家族の活動に参加していますか。

いる	いない
108	14

(5) 地域の活動に参加していますか。

いる	いない
91	34

(6) 地域のプロジェクトや政府のプログラムやサービス、あるいは、ボランティア団体などの活動について十分な情報を得ていますか。

いる	いない
90	32

(7) 医師や保健師・看護師の診察や指導を定期的を受けていますか。

いる	いない
95	29

(8) 医療費の自己負担額は適当ですか。

はい	いいえ
104	17

(9) あなたの医療ニーズに合っていますか

はい	いいえ
101	20

(10) 病院の建物の物理的なアクセスは良いですか

はい	いいえ
96	28

(11) 医療機関は自宅近くにありますか

はい	いいえ
84	40

(12) 医療は信頼できますか。

はい	いいえ
104	20

(13) 医師や保健師・看護師に今以上に診察や指導を受けたいですか。

はい	いいえ
43	76

#### 4. 考察

今回の調査で特徴的な結果をまとめると次のようになる。

##### 4-1 世帯員数

平成24年国民生活基礎調査<sup>[1]</sup>によれば、平成24年の平均世帯人員は2.57である。本調査では2.25であり、障害者のいる世帯の平均人員数は全国平均より低い。また、同調査による単身世帯の割合は25.2%であるが、本調査では38.5%であり、障害者世帯は単身世帯が多いことがわかる。

##### 4-2 世帯収入

平成24年国民生活基礎調査<sup>[2]</sup>では、平成23年の全世帯の1世帯当たり平均所得金額（福島県を除く）は584.2万円である。本調査では週平均が112,887円であるので、年額にすると

587.0万円で、ほぼ同程度の世帯収入となっている。

#### 4-3 持ち家率

平成22年国勢調査<sup>[3]</sup>によれば、持ち家率は61.9%であり、本調査の結果69.0%と比較すると、障害者のいる世帯の方が持ち家率は高い。

#### 4-4 外出時の障壁

示した調査結果は障害横断的なものであるため、障害によりいろいろなものが外出時の障壁になっていることがわかる。物理的障壁以外にも、自分自身の障害が障壁になることも明らかになっている。

#### 4-5 支援の有無

日常生活で十分な支援を受けているかについては、回答者41人中40人が十分な支援を受けていると答えている。また、その支援が家族によるものかどうかについては、家族以外の支援が多いことから、わが国における公的な障害者支援はかなり充実していることがわかる。

#### 4-6 就労

126人中88人(69.8%)が就労している。厚生労働省の「身体障害者、知的障害者及び精神障害者就業実態調査」<sup>[4]</sup>によれば、15～64歳の就業している障害者は43.0%であるので、今回の調査対象者の就業率はかなり高い。また、就労していない者43人のうち、働きたいと思っている人は30人(69.8%)であり、同調査の58.7%<sup>[5]</sup>よりも高く、ここでも、本調査の対象者の就労意欲は高い。

#### 4-7 障害者自身の収入

自分自身の生活を支えられるだけの収入がある人は87人中57人(65.5%)であるが、家族を支えるだけの収入がある人は83人中24人(28.9%)と少なくなっている。

#### 4-8 財産

自分にとって一番大切な財産を家族としている人が一番多い。

#### 4-9 年金などの受給

所得支援制度を利用している人は124人中92人(74.2%)で、年金や手当の受給者が多いと考えられる。

#### 4-10 生活支援

124人中51人(41.1%)が生活の支援を受けているが、注目すべきは、支援の時間数である。1時間(6人)が最多であるが、続いて24時間(5人)となっている。

#### 4-11 医療

定期的に医療機関を受診している人は124人中95人(76.6%)であり、医療ニーズに合っていると答えた人は、121人中101人(83.5%)で医療の充実が伺われる。

## 謝辞

本調査にご協力いただいた障害者団体の皆様に感謝いたします。

## 参考文献

UN ESCAP (2012) Disability, Livelihood and Poverty in Asia and the Pacific, United Nations Publication

## 引用文献

- [1] 厚生労働省、「平成24年国民生活基礎調査の概要」、p3、<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa12/>、閲覧日平成26年3月30日
- [2] 厚生労働省、「平成24年国民生活基礎調査の概要」、p12、閲覧日平成26年3月30日
- [3] 総務省、「平成22年国勢調査」、p34、平成23年10月26日
- [4] 厚生労働省、「身体障害者、知的障害者及び精神障害者就業実態調査の調査結果について」、p.5、平成20年1月18日
- [5] 厚生労働省、「身体障害者、知的障害者及び精神障害者就業実態調査の調査結果について」、p.7、平成20年1月18日

資料

(資料)

調査1 量的調査

障害団体名： \_\_\_\_\_ 調査No： \_\_\_\_\_

記載者（本人、代筆（本人との関係 \_\_\_\_\_））

I. 世帯のプロフィール（障害者を含む世帯全体について記入してください。）

1. 居住地域（該当するものに○をお願いします。）

- 大都市（東京都又は政令指定都市）     市（大都市以外の市）     町     村     その他  
 ( \_\_\_\_\_ )

2. 家族構成（障害者本人を含めて世帯全体を記入してください。）

構成員 No	世帯主との関係	性別	年齢	未婚・既婚	教育歴（最終学歴・専攻、職業訓練・専門、資格などを具体的に記入してください。）
1.		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女		<input type="checkbox"/> 未婚 <input type="checkbox"/> 既婚	
2.		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女		<input type="checkbox"/> 未婚 <input type="checkbox"/> 既婚	

9.		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女		<input type="checkbox"/> 未婚 <input type="checkbox"/> 既婚	
----	--	--	--	--	--

3. 収入と財産

3.1 収入のある人（2の家族構成員のうち職業による収入のある人をすべて記入してください。）

上表の構成員 No を記入	職業		
	産業分野（農林漁業、鉱工業、サービス業等。職種を具体的に記入。）	就労形態（常勤・非常勤・季節労働・日雇）	雇用主、従業員、日雇、自営、派遣等
	<input type="checkbox"/> 農業、 <input type="checkbox"/> 漁業、 <input type="checkbox"/> 工業、 <input type="checkbox"/> サービス業、 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ ) 職種 ( _____ )	<input type="checkbox"/> 常 勤 <input type="checkbox"/> 非 常 勤 <input type="checkbox"/> 季節労働 <input type="checkbox"/> 日 雇	<input type="checkbox"/> 雇用主 <input type="checkbox"/> 従業員 <input type="checkbox"/> 日雇 <input type="checkbox"/> 自営 <input type="checkbox"/> 派遣 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )
	<input type="checkbox"/> その他 ( _____ ) 職種 ( _____ )	<input type="checkbox"/> 非 常 勤 <input type="checkbox"/> 季節労働 <input type="checkbox"/> 日 雇	<input type="checkbox"/> 日雇 <input type="checkbox"/> 自営 <input type="checkbox"/> 派遣 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )

3.2 その他の収入（○印）

- 仕送り     国または地方自治体の手当     国や地方自治体以外の手当  
 その他（財産収入、投資収入、貯金利息、生活保護など：具体的に

3.3 ひと月の平均世帯収入はどのくらいですか。（ \_\_\_\_\_ ）円くらい

3.4 あなたの世帯は次の金融機関等との取引（資金の借入れや預金など）がありますか。

- 銀行  
 地域の組織（農協、社会福祉協議会の生活福祉資金、母子・寡婦福祉資金など） 具体的に  
 ( \_\_\_\_\_ )

- コミュニティーの組織（講や無尽など） 具体的に  
( )
  - 個人の互助団体 具体的に  
( )
  - マイクロファイナンス 具体的に  
( )
  - その他（消費者金融、質屋など） 具体的に  
( )
- 3.5 主な資産（お持ちのものに○印。その他の資産がありましたら記入してください。）
- 土地 自宅 車 船 オートバイ 自転車 別荘 その他  
( )

4. 住宅

4.1 所有関係（○印）

- 持家
  - 借家・アパート  その他
- ( )

4.2 住宅の状況（○印、数字、または内容を記入してください。）

- 部屋数：( ) 室
- 構造：木造 鉄筋コンクリート その他  
( )
- 壁の材質：木 鉄筋コンクリート その他  
( )
- 屋根の材質：瓦 トタン わら コンクリート その他  
( )
- 床の材質：木 畳 樹脂パネル その他  
( )

4.3 生活設備（○印または内容）

	屋内にある	自宅からの距離（前半は、屋内にない場合に記述してください）
上水道	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
電気	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
トイレ	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
下水/汚水タンク	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
舗装道路		
未舗装道路		
公共交通機関		

5. 社会サービス（○印または内容）

5.1 世帯として、ホームヘルパーの派遣など社会（福祉）サービスを受けていますか。（公的サービス、ボランティアサービスなどあらゆるものを含みます。） はい いいえ

[はいと答えた方に] どのようなサービスですか。いくつでも下に記入してください。

5.2 受けているサービスの中に、所得補助のための手当等がありますか。 はい いいえ

[はいと答えた方に]

5.3 これらの所得補助のための手当等は、世帯全体の収入の何パーセントくらいになりますか。

II. 障害者個人プロフィール（障害のある人それぞれについて記入してください）

1. 基礎情報

1.1 年齢：\_\_\_\_\_ 1.2 性別：男 女

1.3 世帯主との関係（世帯主の \_\_\_\_\_）

1.4 あなたには扶養者はいですか。  はい  いいえ

1.5 [はいと答えた方に] 何人ですか。（ \_\_\_\_\_ ）人

1.6 障害の種類（○印または内容。複数可。）

	障害の状態について簡単に記述してください。
身体障害	
<input type="checkbox"/> 視覚障害	
<input type="checkbox"/> 聴覚障害	
<input type="checkbox"/> 言語障害	
<input type="checkbox"/> 知的障害	
<input type="checkbox"/> 精神障害	
<input type="checkbox"/> 重複障害	
<input type="checkbox"/> その他	
<input type="checkbox"/> 不明	

1.7 障害の原因は何ですか。

（ \_\_\_\_\_ ）

障害の発症年齢は何歳ですか。（ \_\_\_\_\_ 歳）

1.8 障害は進行性ですか。  はい  いいえ

1.9 介助なしで移動できる範囲  屋内のみ  屋外も可

1.10 外出時、公共交通機関、道路、建物などはアクセシブルですか。

単独で利用できる  補助してもらえれば利用できる  どうしても利用できない

1.11 あなたにとって、移動の際の一番のバリアは何ですか。

1.12 あなたはいま福祉機器を使用していますか。  はい  いいえ

[使用している方へ] どのような福祉機器を使用していますか。下にいくつでも記入してください。

1.13 あなたは、食事、入浴、衣服の着脱、トイレなど生活介助が必要ですか。  はい  いいえ

[はいと答えた方に] その介助を受けていますか。  はい  いいえ

その介助の介助者は、だれですか。  家族  家族以外の人

1.14 福祉機器は持っていない人にお伺いします。福祉機器があれば、日常生活の役に立つと思いますか。

はい  いいえ

## 2. 教育・訓練

2.1 全体で何年学校に行きましたか。（ \_\_\_\_\_ ）年

2.2 最終学歴（ \_\_\_\_\_ 中学卒、 \_\_\_\_\_ 高校卒、 \_\_\_\_\_ 大学卒、 \_\_\_\_\_ 大学院卒 \_\_\_\_\_ その他 \_\_\_\_\_ ）

2.3 どのような学校に行きましたか。（すべて記入してください。）

普通学校（ \_\_\_\_\_ ）年（うち特殊学級 \_\_\_\_\_ 年）、特殊学校（ \_\_\_\_\_ ）年、その他（ \_\_\_\_\_ ）

2.4 在学中に追加の教育・訓練（補習や歩行訓練等）を受けましたか。  はい  いいえ

[はいと答えた方に] 具体的にその内容を下に記入してください。

2.5 学校を中退したことがありますか。  はい  いいえ

[はいと答えた方に] その理由は何ですか。下に記入してください。

2.6 職業訓練を受けたことがありますか。  はい  いいえ

[はいと答えた方に] 具体的にどのような訓練を受けましたか。下に記入してください。

2.7 他に教育・訓練を受けましたか。（公的または民間とも含みます。）  はい  いいえ

[はいと答えた方に] どんな教育・訓練を受けましたか。下に記入してください。



3. 雇用

3.1 現在働いていますか。

雇用されている 自営 無職（求職中） 無職（求職していない）

その状態はどのくらい続いていますか。（ ）年

3.2 職歴

職務内容／ 役職	働いていた期間	辞職した理由	所在地（都市）	仕事の種類	仕事の対価
	年 月			<input type="checkbox"/> 正職員 <input type="checkbox"/> 非正規職員 <input type="checkbox"/> 自営 <input type="checkbox"/> 内職	<input type="checkbox"/> 賃金 <input type="checkbox"/> 現物給付 <input type="checkbox"/> 無給
	年 月			<input type="checkbox"/> 正職員	<input type="checkbox"/> 賃金
				<input type="checkbox"/> 自営 <input type="checkbox"/> 内職	<input type="checkbox"/> 無給

3.3 [働いていない方に] 働きたいと思っていますか。 はい いいえ

3.4 [働いていない方に] 何が働くことのバリアになっていますか。下に記入してください。

4. 収入

4.1 [雇用されている方または自営の方に] あなたの収入だけであなた自身が生活していけますか。

はい いいえ

4.2 [雇用されている方または自営の方に] あなたの収入で扶養者を養うことができますか。

はい いいえ

4.3 あなたは、世帯の家計を助けていますか。 はい いいえ

4.4 あなたは、扶助制度や家族等からの経済的支援を受けていますか。 はい いいえ

[受けている方に] その支援はあなたの収入全体の何%くらいにあたりますか。（ ）%

4.5 収入を得られる活動にこれまでの人生全体で何年くらい従事していましたか。約（ ）年

4.6 緊急の場合、必要な金銭的支援を得られますか。 はい いいえ

[はいと答えた方に] 具体的にどのような支援かをお答えください。

4.7 あなたは金銭的支援のための福祉サービスを利用できますか。 はい いいえ

[はいと答えた方に] そのサービスを実際利用したことがありますか。 はい いいえ

4.8 あなたは、個人の互助団体に所属していますか。 はい いいえ

4.9 あなたのお金の使い道はだれが決めますか。

あなた自身 世帯主 その他 相談して決める

4.10 あなたにとって最も大切な財産はなんですか。（具体的に： ）

4.11 国や地方自治体による融資制度を活用する資格があなたにあるかどうか知っていますか。

はい いいえ

4.12 あなたは、所得支援制度を利用したことがありますか。 はい いいえ

4.13 これらの所得支援制度を活用できる資格があるにもかかわらず、利用していない方にお聞きします。

その理由は何ですか。

5. 収入以外の事項

5.1 日常生活での支援を受けていますか。 はい いいえ

[はいと答えた方に] 一日平均何時間くらい支援を受けていますか。（ ）時間。

5.2 家族の生活に関する決定に参加していますか。 はい いいえ

[いいえと答えた方に] なぜ自分で決めていないのか具体的に記述してください。

5.3 旅行など家族の活動に参加していますか。 はい いいえ

[いいえと答えた方に] なぜ参加していないのか具体的に記述してください。

- 5.4 地域の活動に参加している  はい  いいえ

[いいえと答えられた方に] なぜ参加していないか具体的に記述してください。

- 5.5 地域のプロジェクトや政府のプログラムやサービス、あるいは、ボランティア団体などの活動について十分な情報を得ていますか。  はい  いいえ

[いいえと答えられた方に] なぜ情報を得られないか具体的に記述してください。

- 5.6 医師や保健師・看護師の診察や指導を定期的に受けていますか。  はい  いいえ

- 5.7 医療に関して次のサービスの評価してください。

医療費の自己負担額は適当ですか。  はい  いいえ

あなたの医療ニーズに合っていますか  はい  いいえ

病院の建物の物理的なアクセスは良いですか  はい  いいえ

医療機関は自宅近くにありますか  はい  いいえ

医療は信頼できますか。  はい  いいえ

- 5.8 医師や保健師・看護師に今以上に診察や指導を受けたいですか。  はい  いいえ

- 5.9 あなたの生活状況は次のどれにあてはまりますか。

生活ニーズを満たすことができる。

生活ニーズを満たすことができるが、かなり難しい。

生活ニーズを満たすことができない。

全く満足していない  満足していない  満足しているともいないともいえない

満足している  非常に満足している

## Summary

The Result of ESCAP “Action Research on Disability,  
Poverty and Livelihood” in Japan

Akira Terashima

United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (ESCAP) carried out “Action Research on Disability, Poverty and Livelihood” in eight countries of the Asia-Pacific region in 2012. However, it was reported only a comparable item because the investigation was aimed for an international comparison. So the details about domestic findings is reported in this article. As a result, new knowledge was provided about the households of the persons with disabilities, outdoor barriers, life support systems, the situation of the income, the medical institution, etc.

**Keywords** ESCAP, persons with disabilities, action research, Japan,  
international comparison

(2014年6月19日受領)